

2204 RIA法による血清pregnancy-associated α_2 -glycoprotein(SP₃)量の測定

石田正夫、梶田芳弘、塩津徳晃（南丹、内）、
越智幸男（滋医大、二内）、八谷孝、宮崎忠芳、
吉村学、伊地知浜夫（京医大、二内）

近年妊娠関連蛋白が、妊娠のみならず悪性腫瘍患者の血清中に増加する事が報告されている。中でも pregnancy-associated α_2 -glycoprotein(SP₃)に関しては、その血中レベル及び病態生理学的に不明な点が多い。私達は血清SP₃のRIA法を開発し、悪性腫瘍患者の血清レベルを検討した。SP₃は、Dr. Bohnより提供を受け、抗体はダコー社製を用いる第二抗体法で測定した。測定範囲は1mg/dl~100mg/dlで、正常人血清は1mg/dl以下であり、妊娠血清は、15mg/dl以上であった。悪性腫瘍では、肺癌14例中5例、乳癌7例中2例が高値を示した。女性ホルモン療法中の前立腺癌2例は87.5、27.5mg/dlと著増した。一方胃癌、大腸癌では高値を認める例はなかった。今回用いた標識SP₃と α_2 -macroglobulin抗体(ダコー)と交叉反応及びSP₃抗体(ダコー)と標識SP₁(ヘキスト)が交叉反応を示す事等より、使用した抗原と抗体の特異性に多少の疑問があった。しかし、血中SP₃は肺癌及び乳癌等或る種の悪性腫瘍で高率に高値を認める事を確認し癌関連抗原としての意義について検討した。

2205 転移形成とプロスタグランジンEの変動 大塚信昭、伊藤安彦、米田正也、柳元真一 (川崎医大、核医学)

骨転移発生機序におけるプロスタグランジンE(PGE)の役割を明らかにする目的で、家兎VX-2癌の骨腫瘍形成過程を骨、骨髓シンチグラフィーでfollow-upし、PGEの消長との関係を報告してきた。今回は以下の項目について検討した。

1) 経皮的に肝内にVX-2を移植することにより肝転移を作成し、その発育を肝スキャンでfollow-upした肝転移群とPGE値の変動

2) 家兎心室内にVX-2を注入し、骨転移(-)で広範な転移をきたした群とPGE値の変動

3) 各種腫瘍細胞におけるPGE産生能(in vitro)

骨転移群では骨スキャン陽性時にPGEの上昇を認めたが、肝スキャン上SOLを認めた肝転移群では骨転移形成群に比し上昇は軽度であった。一方、血行性転移群では骨スキャン陰性(一部骨髓スキャン陽性)であるにもかかわらず高値を示した。この成績は血行性転移の形成法と関係があるように思われ現在検討中である。in vitroでは各種腫瘍細胞間にPGE産生能に変動が認められた。即ちVX-2ではかなりのPGE産生能を認めたがHeLaS3では増加がみられなかった。

2206 担癌体における免疫能の測定。³H-thymidineを用いたリンパ球幼若化率の測定に関する基礎的ならびに臨床的検討

飯尾 篤、葛家千春、和田真理、河村 正、浜本 研
(愛媛大、放)

免疫能の異常が、悪性腫瘍疾患患者に存在することは、従来から考えられていた。今回、我々は、正常人ならびに各種悪性腫瘍疾患患者の末しょうリンパ球を、PHA、Con Aを加えて培養することによって幼若化させ、その幼若化率を³H-thymidineの取り込みによって、測定化すると共に、その基礎的検討を行った。

現時点で健康成人10名のPHAおよびCon Aによるstimulation indexは各々69.4±40.2、および25.6±22.7であった。肺癌、乳癌、食道癌、悪性リンパ腫では、正常値に比べ低い傾向がみられた。またこれら疾患患者の幼若化率の、放射線、化学療法などの治療による変動についても観察した。